

宇都宮市中戸祭町の県労働者福祉センターで二十九日まで、原爆の恐ろしさを伝える「原爆パネル展」が開かれている。今年で五回目。主催する県原爆被害者協議会の中村明会長（ハシ）も、宇都宮市も、長崎で原爆被害に遭った一人。安倍政権が原発再稼働などに突き進む中で、開催だけに、「核の怖さを知ってほしい」と強く訴えている。

(後藤慎一)

きょうまで 原爆パネル展

長崎市に原爆が投下された一九四五年八月九日、十四歳だった中村さんは、市内の工場で勤労作業中だった。崩れてきた建物の鉄骨の下敷きになり、右足を骨折。両親は即死し、姉も行方不明になった。中村さんはその後、足の痛みと戦いながら生きてきた。サラリーマン時代、メーカーに勤め、原発

核の怖さを知って

「歴史的経験から学ばなければ」

「核の怖さは、一度にたくさん人の命を奪うこと。歴史的経験から学ばなければいけない」

二十五日に始まったパネル展では、広島、長崎の原爆投下後の悲惨な写真や絵約三十点を展示。乳飲み子を抱いた母、やけどを負って水を求める市民、原爆で亡くなった人たちの姿が痛々しい。

原爆投下後の広島を描いた漫画「はだしのゲン」、被爆体験集などの書籍約二十点も展示されている。いずれも、原爆の恐ろしさについて知ってもらいたいと、原発の恐ろしさも分かってもらいたいという、中村さんの思いが込められている。

中村さんは、安倍政権による特定秘密保護法の制定や集団的自衛権行使容認の閣議決定も危く、「戦争が起きれば核戦争になる危険が高い。パネル展を、一人でも多くの方に見てほしい」と訴えている。

パネル展は午前十時～午後一時。



宇都宮市内で開かれている原爆パネル展

長崎で被爆・中村 明さん



関連の遠心分離機を作る仕事に携わった。当時は、原発と原爆は「同じ核だから兄弟かな」といつくらは思った」というが、二〇一一年に東京電力福島第一原発事故が発生すると、原発も危険なものだと強く思うようになった。

田ビル2F
tunomiy@tokyo-np.co.jp
ルメゾンA
電話:0288-21-5882

0120-026-999
配達・集金お問い合わせ
03-6910-2556
広告のご用命
028-624-4411

東カキ
アズマリキシ
http://www.azumarikishi.co.jp

株式会社 島崎酒造
那須烏山市中央1丁目11番18号
TEL.0287(83)1221